人手不足が迫る効率化

あみやき亭・会計士「毎日が決算」

監査法人を取り巻く環境が目まぐるしく変化している。顧客企業のグローバル化が進み、買収ファンドを通じた複雑な経営形態も広がっている。相次ぐ不正会計問題で打撃を受けた監査業界。今の課題を監査法人と企業の取り組みを通じて探る。

開れる監査法人

現場が取り組む課題（上）

決算発表で毎回先陣を切る愛知県拠点のレストランチェーン、あみやき亭。同社と監査法人の取り組みは、将来の会計監査の在り方を示すモデルの一つになる。

決算会見する船山三千男社長(右)と佐藤会長(名古屋市)

10月1日の日曜日。愛知県春日井市にある、あみやき亭本部の一室。あずさ監査法人の会計士が決算短信の最終確認に追われていた。「月末の資産残高を確認するのに追加資料が必要」。資料を片手に電卓をはじきながら経理担当者に矢継ぎ早に注文を繰り返した。作業は夜遅くまで続いた。

翌2日、あみやき亭は2017年4～9月期決算を発表した。3月期の決算企業では一番乗りだ。02年の上場当初から原則、締め日の翌営業日に決算を開示してきた。開示1番を巡ってIT（情報技術）企業などと競う時期もあった。

あみやき亭の決算の仕組み

【損益計算書】		
売上高	←	レジの現金を専用処理機に入金、データを本部に
売上原価	←	原材料を一括仕入れし原価計算をしやすく
販売費・一般管理費	←	営業終了後に一日のパート費用を専用端末に入力
営業利益	←	前日の営業利益は翌午前に確認可能
……	←	外食専業で営業外収益などは小さい
純利益	←	税金費用を計算して算出

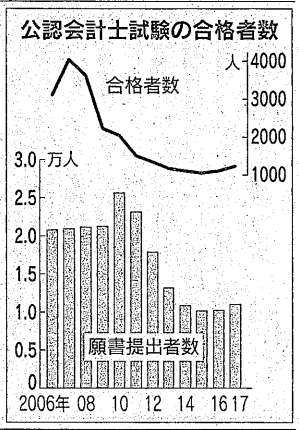
だが、監査の厳格化が進む中、翌営業日に開示する3月期企業は、あみやき亭だけになった。同社の佐藤啓介会長は「やるからには1番にこだわりたい」と意気込む。

高速決算の裏にあるのが「日次決算」だ。月ごとが一般的な締め日を日ごとにして毎日の収支を把握する管理会計のひとつ。あみやき亭はこれを徹底している。

その実現にはあずさ監査法人の協力が欠かせない。売り上げや仕入れ代、人件費といった各店舗のデータは毎晩、本部が集約する。日次決算のデータは会計士のもとに毎日送られる。会計士は不自然な点が見つかればその都度、会社側に確認する。あみやき亭の経理部門と担当会計士は情報を共有し、売り上げが落ち込むなど店舗に減損処理の兆候が見られれば即座に対応する。

情報が毎日オープンに伝わることで、あみやき亭側は「監査法人と会計処理を巡った意見対立はほとんどない」（幹部）と話す。会計士側も決算集中日を避けて業務を分散できる利点がある。

公認会計士試験の合格者数



「カギは単純化と平準化だ」と佐藤会長は強調する。あみやき亭では交通費などの即日精算は当たり前。経費は原則、当日に現金で払い戻しを受ける。経費を勘定システムに入力するのはパート社員で、経理部門の正社員は2人のみだ。

あみやき亭の17年3月期の売上高に占める販管費の割合は53％と同業の安楽亭などに比べ10ポイントほど低い。監査法人と協業した高速決算が業務の効率化を促している。

実は、あみやき亭のように経理処理などの作業をできるだけ標準化し、「早く決算発表する企業は欧米では一般的」（あずさ幹部）。複雑なシステムや組織が災いし、作業に手間取る企業や監査法人が学ぶ点は多い。

不正会計問題などを受け、会計士の人気は下落傾向が続く。監査法人が顧客企業と切磋琢磨（せっさたくま）し、業務の効率化を進めることが深刻な人手不足を乗り越える手段の一つになる。